

令和5年度 実践研究事業
(そにとキャンプ・出会いのキャンプ)

- [主 催] 国立曾爾青少年自然の家
- [後 援] 奈良県教育委員会、名張市教育委員会、宇陀市教育委員会
- [期 日] 令和5年5月20日（土）～5月21日（日）
- [対 象 者] 発達に特性のある児童や集団（学校）生活に困り感のある児童、不登校傾向などのある児童などの小学校3～6年生児童とその保護者
- [参加/募集] 児童12名／12名・保護者13名
- [講 師] 吉田昌功先生（大和高田市特別支援教育専任指導員）、田口由美様（LITALICO 株式会社）
- [担 当] 三木智弘・坂本純一（企画指導専門職）、菱川裕輝（事業推進係員）・百田恵美（看護師）千葉博仁（管理係員）



1 趣 旨

曾爾の雄大な自然の中で、初めての人、自然、体験との出会いを楽しみ、年間のキャンプへの期待と展望をもつ自発的な活動が中心。保護者に対しては、講義や当事者の話を聞き、子どもとの関わり方や捉え方に新たな視点をもてるよう普及、啓発に努める。また交流の機会をもち、保護者間の繋がりを育む。

2 ねらい

- ① 新たな出会い（人、自然、体験）に慣れ、思いきり楽しむ。
- ② 夏のキャンプに、自分だけで参加したいという意欲と期待を育む。
- ③ 発達に特性のある子どもをもつ保護者同士が繋がり、学びを深め、我が子を理解する一助とする。

3 プログラム展開

5/20 (土)	10:45 受付	11:00 始まりの会	12:00 昼食	13:00 森遊び	17:00 夕食	18:00 ナイトハイク	20:00 入浴	21:00 就寝
5/21 (日)	6:30 起床	7:30 朝食	9:00 スプーン作り	13:00 ふりかえり	14:00 終わりの会	14:15 解散		

4 活動の様子



5 まとめ（保護者アンケート・担当者の所感）

- ・子どもからは、「森で思いきり遊ぼうが楽しかった」、ボランティアに対して「いろんなところに一緒に行ってくれた」など、自然や人との「出会い」を楽しむ感想が見られた。
- ・保護者からは、「高校以降の事について具体的に考えられた」、「キャンプ〇日当事者側の話が聞けてよかった」、「皆さんとお話、情報を共有することができてよかった」等の感想を得た。
- ・出会いのキャンプにより印象をもてた子が多かったようで、2回目の冒険のキャンプには11人の子どもたちが参加することができた。

令和5年度 実践研究事業
(そにっとキャンプ・冒険のキャンプ)

- [主 催] 国立曽爾青少年自然の家
- [後 援] 奈良県教育委員会、名張市教育委員会、
宇陀市教育委員会
- [期 日] 令和5年7月15日(土)～7月17日(月)
- [対象者] 発達に特性のある児童や集団(学校)生活に困り感
のある児童、不登校傾向などのある児童などの小学
校3～6年生児童とその保護者
- [参加/募集] 児童11名／12名
- [担 当] 三木智拡・坂本純一(企画指導専門職)、菱川裕輝(事業推進係員)・百田恵美(看
護師) 千葉博仁(管理係員)



1 趣 旨

曽爾の雄大な自然の中で、学校や家庭以外の新たな環境のもと、自己を開放しながら、他者との関わりを楽しみ、ときには、難しい課題を「仲間」と乗り越える体験から、達成感を積み重ね、自己肯定感の基礎を培う。また、保護者に対して研修を実施するとともに、交流を通して相談し合い、支え合う関係の礎を築く。本事業を通して得た成果の普及・啓発を行う。

2 ねらい

- ① 生活体験・社会体験を通じて、自立への一步を踏み出す。
- ② 山を踏破し、川遊びを経験して、やり遂げた(ここまでできた)自分に自信をもつ。
- ③ 自己選択・自己決定の経験をする。

3 プログラム展開

7/15 (土)	10:30 受付	11:00 始まりの会	11:30 昼食	13:30 職業体験	16:00 買い物体験	18:00 夕食入浴	20:00 振り返り	21:00 就寝		
7/16 (日)	6:30 起床	7:30 朝食	10:00 登山	12:00 昼食	13:00 川遊び	15:00 洗濯タイム	17:00 夕食入浴	19:30 焚き火	20:15 振り返り	21:00 就寝
7/17 (月)	6:30 起床	9:00 選択プロ グラム	10:30 ふり返り	11:00 保護者懇 談	11:30 終わりの会	12:30 解散				

4 活動の様子



5 まとめ

- ・ ずっとみんなと共に活動して楽しかった。
- ・ 一緒に山や川の活動をして「なかまになれた気がする。
- ・ 冒険してる感じがした。
- ・ 子ども中心に考えられており、過ごしやすかったし楽しかった。

令和5年度 実践研究事業
(そにっとキャンプ・旅立ちのキャンプ)

- [主 催] 国立曾爾青少年自然の家
- [後 援] 奈良県教育委員会、名張市教育委員会、宇陀市教育委員会
- [期 日] 令和5年12月9日(土)～12月10日(日)
- [対 象 者] 発達に特性のある児童や集団(学校)生活に困り感のある児童、不登校傾向などのある児童などの小学校3～6年生児童とその保護者
- [参加/募集] 児童11名/12名・保護者13名
- [講 師] 韓昌完先生(下関市立大学学長) 横道誠先生(京都府立大学准教授)
奥田博先生(NPO法人地球元気村) 吉田昌功先生(大和高田市特別支援教育専任指導員)
- [担 当] 三木智弘・坂本純一(企画指導専門職)、菱川裕輝(事業推進係員)・百田恵美(看護師)
千葉博仁(管理係員)



1 趣 旨

曾爾の雄大な自然の中で、初めての人、自然、体験との出会いを楽しみ、年間のキャンプへの期待と展望をもつ。保護者に対しては、講義や当事者の話を聞き、子どもとの関わり方や捉え方に新たな視点をもてるよう普及、啓発に努める。また交流の機会をもち、保護者間の繋がりを育む。

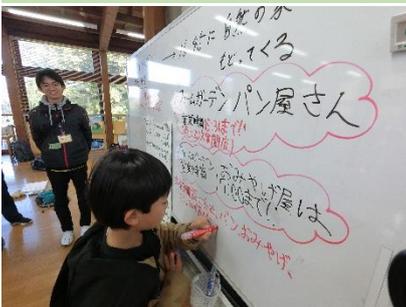
2 ねらい

- ① 選択プログラムの場面で、自他の意見を互いに尊重し自分たちだけのキャンプを創る。
- ② 1年間を共に過ごした仲間と、最後のキャンプを楽しみ、それぞれの成長をふりかえる。
- ③ 保護者同士の繋がりを、視野を広げ、行動者となるヒントを得る。

3 プログラム展開

12/9 (土)	9:45 受付	10:00 始まりの 会	10:30 過ごし方 会議	11:00 亀山ハイ キング	11:30 選択プロ グラム	17:00 夕食	18:30 アドベン チャー カウンセ リング	20:30 入浴	21:30 就寝
12/10 (日)	7:00 起床	8:00 朝食	9:00 オリジナ ル鍋作り	11:30 昼食	13:00 ふりかえ り	14:00 終わり の会	14:30 解散		

4 活動の様子



5 まとめ(保護者アンケート・担当者の所感)

- ・ 色々なことに一人でがんばれるようになった。
- ・ うまくみんなの意見を取り組み、仲よく過ごせて満足感を感じています。
- ・ しっかりよく考え選択し、自分たちだけのキャンプを作れたと思います。
- ・ みんなの意見を取り組もうという意識をもてるようになりました。
- ・ 保護者間での交流によって多様な考え方を学べる。
- ・ 子供の成長を促して頂くだけでなく、保護者の知識習得、考え方、一人ではないということが分かってとても良かった。